



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和8年度第2回運営委員会
資料3



令和7年度 血液事業の取り組みについて

令和8年9月28日(月)
令和8年度第2回
血液事業部会運営委員会資料

1. 令和7年度事業概況

供給実績 (輸血用血液製剤 供給数)	赤血球製剤	652万単位(333万バッグ)	合計 <u>1,752万単位</u> (507万バッグ)
	血漿製剤	215万単位(90万バッグ)	
	血小板製剤	884万単位(85万バッグ)	
供給実績 (血漿分画製剤用 原料血漿供給量)	凝固製剤用	14万L	合計 <u>120万L</u>
	一般製剤用	106万L	
採血実績 (献血者数)	全血献血	343万人	合計 <u>500万人</u>
	血漿成分献血	99万人	
	血小板成分献血	57万人	

※ 供給数は200mL献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。カッコ内は実バッグ数。

※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと

【参考】過去の事業実績

	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績
--	------------	------------	------------	------------	------------	------------

○ 輸血用血液製剤供給数(万単位)

赤血球製剤	636	647	650	653	657	652
血漿製剤	210	209	209	213	215	215
血小板製剤	867	868	865	878	866	884

○ 血漿分画製剤用原料血漿確保量・供給量(万L)

確保量	125.2	124.9	125.9	123.4	124.3	125.7
供給量	122.0	123.5	122.0	120.0	120.0	120.0

○ 献血者数(万人)

全血献血	337	341	342	345	344	343
血漿成分献血	112	109	104	101	102	99
血小板成分献血	55	55	54	55	53	57

※ 供給数は200mL献血から得られる量を1単位として換算した数。血漿製剤の換算は、FFP-120を1単位、FFP-240を2単位、FFP-480を4単位としていること。

※ 数値については四捨五入していること。

2. 令和7年度の主な成果

(1) 将来の献血基盤の確立に向けた若年層への献血推進

主な取り組み

THINK献血をテーマにした年間献血推進方策を中心に展開

- ア 年間献血推進方策
- イ 大勢川崎病支援プロジェクト
- ウ 新たな表彰制度
- エ 輸血の現場を知る動画制作
- オ 小学生・中学生への教育・啓発

成果



ア 年間献血推進方策

6月 世界献血者デー

献血への感謝を込めてバルーンを配布



7月 愛の血液助け合い運動月間

第61回献血運動推進全国大会(宮城県)を開催し
献血功労者に感謝状を贈呈



8月 献血の日

全国の学生ボランティアと連携し、全国7地域の
主要駅に参加型広告を掲載



1月 はたちの献血



はたちの若者を中心
に献血の普及啓発キ
ャンペーンを実施

3月 献血パビリオンの出展

キッザニア甲子園(兵庫県)に献血パビリオンを出
展し、子供たちが献血に触れる機会を提供



イ 大勢川崎病支援プロジェクト

読売巨人軍の大勢選手、日本川崎病研究センター、日本赤十字社協働で川崎病の支援につながる活動を実施



川崎病啓発動画



宮崎キャンプイベント

ウ 新たな表彰制度

活動年数にかかわらず、献血推進に積極的に取り組んでいる団体・個人を表彰する制度を創設



明治安田生命保険相互会社様



アマゾンジャパン合同会社様

エ 輸血の現場を知る動画制作

高校生が、医師へのインタビューを通して献血を学ぶ動画を制作



オ 小学生・中学生への教育・啓発

小学生への献血教育冊子や、動画などの電子媒体を活用し、献血の普及啓発を実施



献血教育動画



こども霞が関見学デー(献血模擬体験)

(2)輸血後副作用の減少を図る安全な輸血用血液の供給

主な取り組み

- 輸血後細菌感染の安全対策として、細菌スクリーニングを導入した血小板製剤の供給に向けた運用方法の確認等の準備
- PAS血小板製剤の基本設計(製剤規格・有効期間等)及び導入スケジュールの整理

成果

- 令和7年7月30日から細菌スクリーニングを導入した血小板製剤の供給開始
- 医療機関からの報告に基づき、日赤の検査で細菌感染が確認された件数(血小板製剤)
 - 令和6年:2件
 - 令和7年:1件
 - 1/1~7/29:1件
 - 7/30~R8/3/31:0件

(3) 基幹システムの更新

主な取り組み

- 血液事業の運営基盤である基幹システム(血液事業情報システム)の更新に向けたテスト・教育・移行リハーサル実施

成果

- 令和8年4月1日から基幹システム稼働開始
- 調達・購買業務における作業の効率化
業者との取引業務に介在できるシステムが導入されたことにより、見積書、発注書、納品書、請求書等の各種帳票のやり取りをオンラインで行うことが可能となり、各種帳票の照合作業の削減や、紙媒体での受領や保管作業の削減等の成果に繋がった

3.令和7年度におけるその他取り組み

安全管理体制の強化～血液事業に関する事故防止の取り組み～

①職員の意識改革

- ・ 基本理念と私たちの目標の再確認と徹底
- ・ 献血血液を扱う業務の責任を自覚
- ・ 業務手順を確実に遵守することの重要性の再認識

②ガバナンスの強化

- ・ 厚生労働省への報告基準の策定
- ・ 血液事業本部内のマニュアルの改訂(報告基準等の明記)

③業務手順の一斉点検

- ・ 現行手順の一斉点検

④委託業務契約の調査と見直し

- ・ 契約内容の確認及び見直し

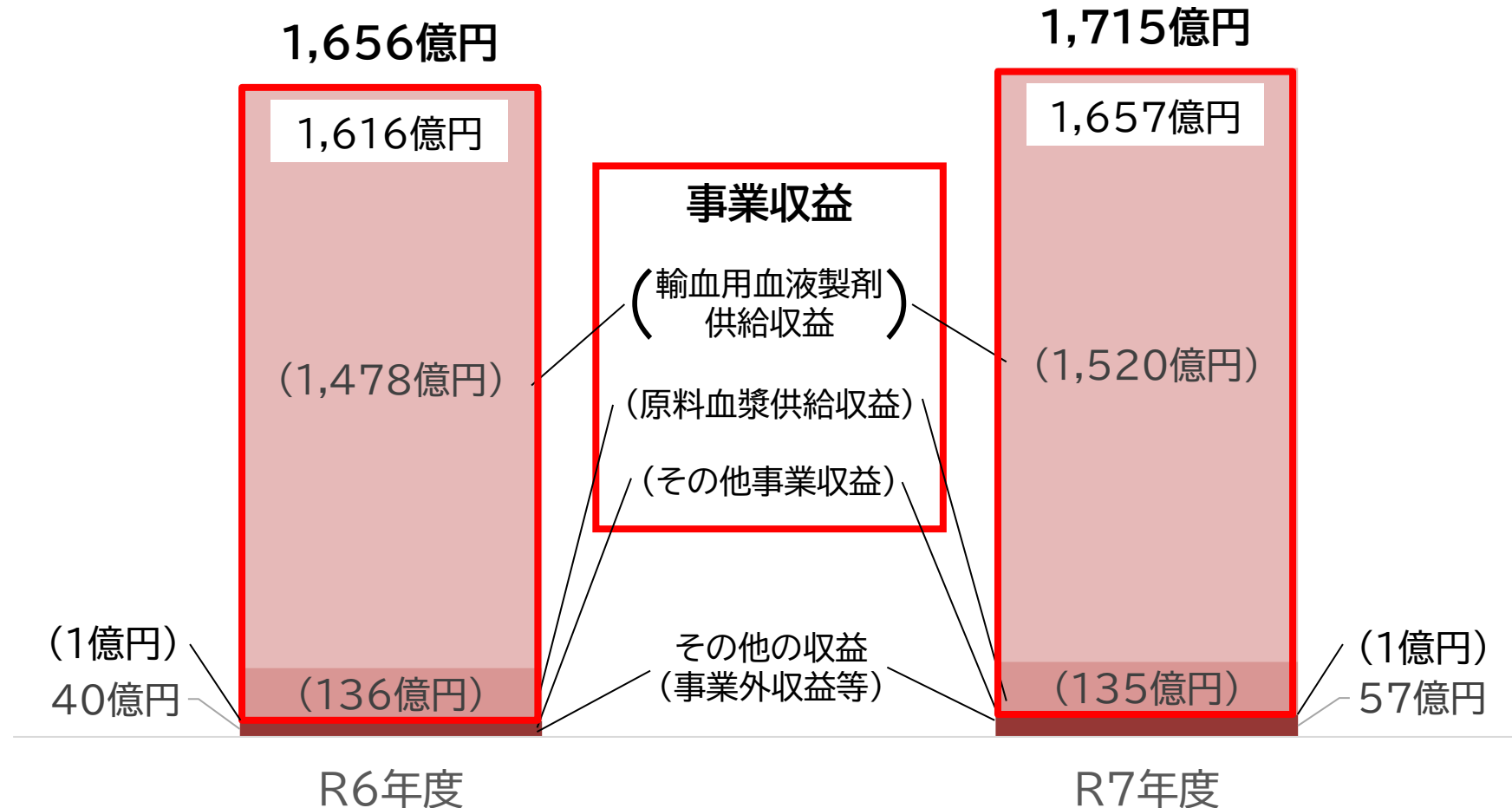
⑤過去事案の調査

- ・ 過去事案の調査及び分析

4. 歳入歳出決算の概要(血液事業特別会計)

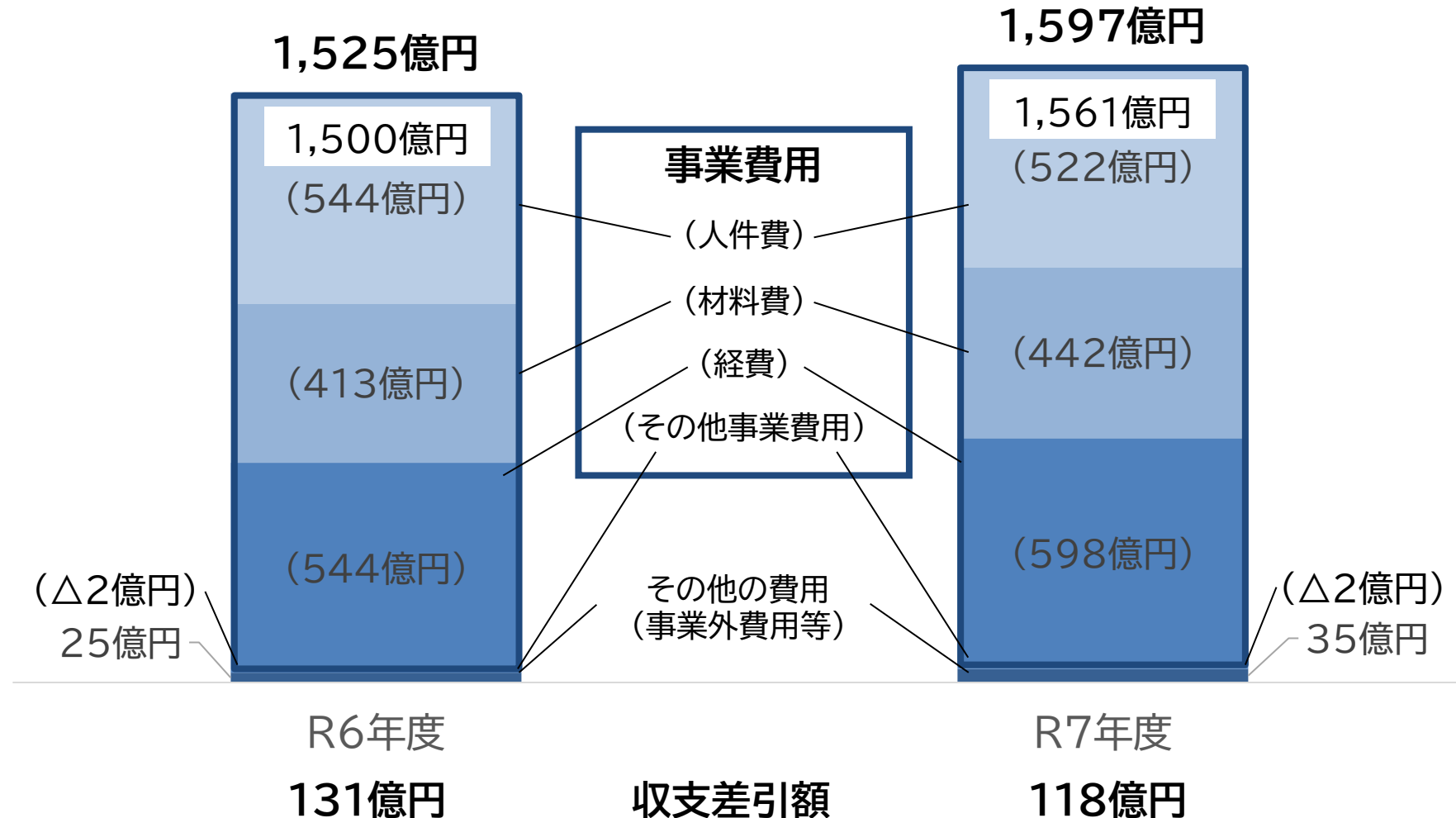
(1) 収益的収入

※金額は、それぞれ1億円未満を切捨てて表示しているため、合計及び収支差額が一致しない場合がある



(2) 収益的支出

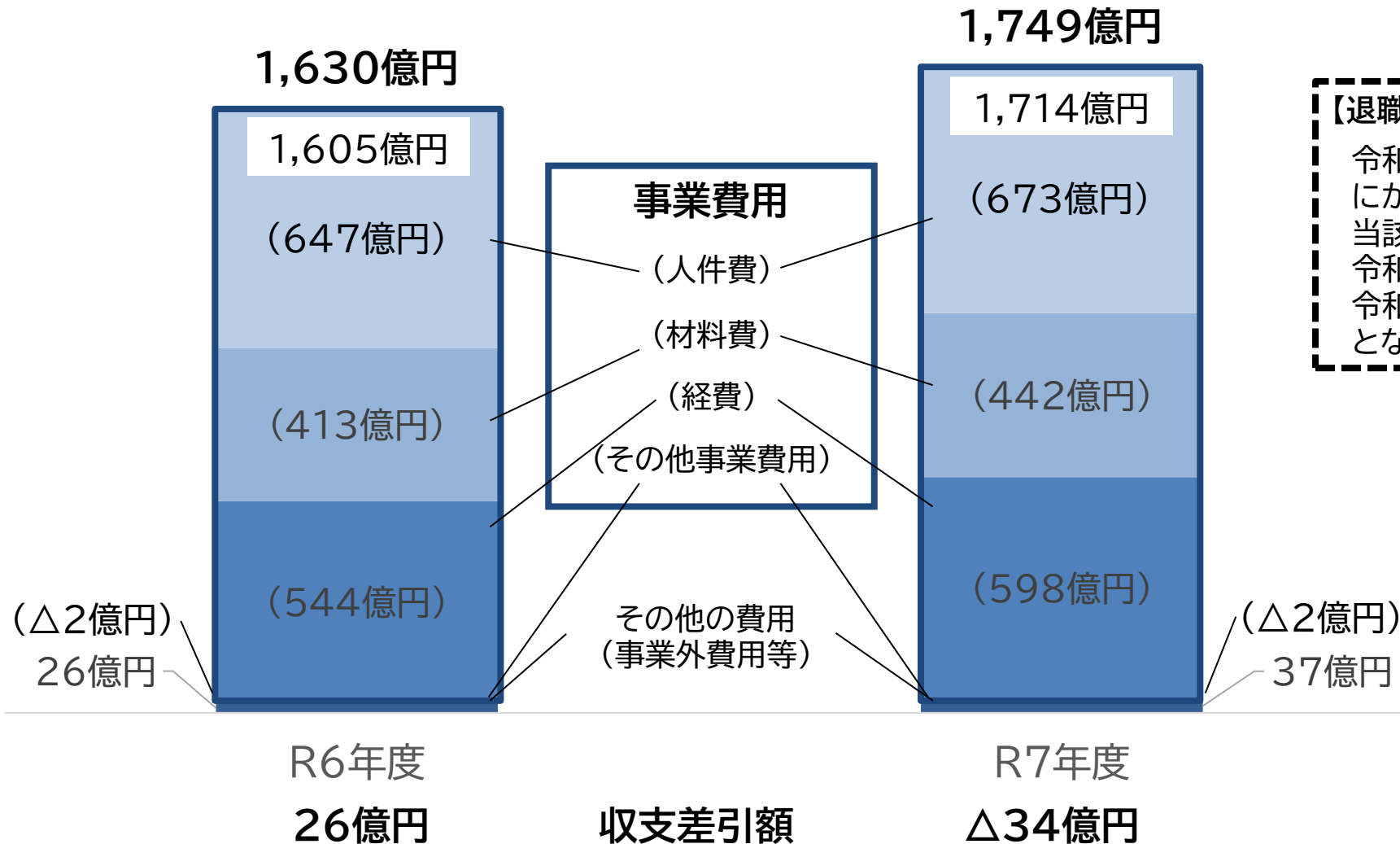
※ 金額は、それぞれ1億円未満を切捨てて表示しているため、合計及び収支差額が一致しない場合がある



【参考】収益的支出

※退職給付にかかる決算整理による影響額を除外

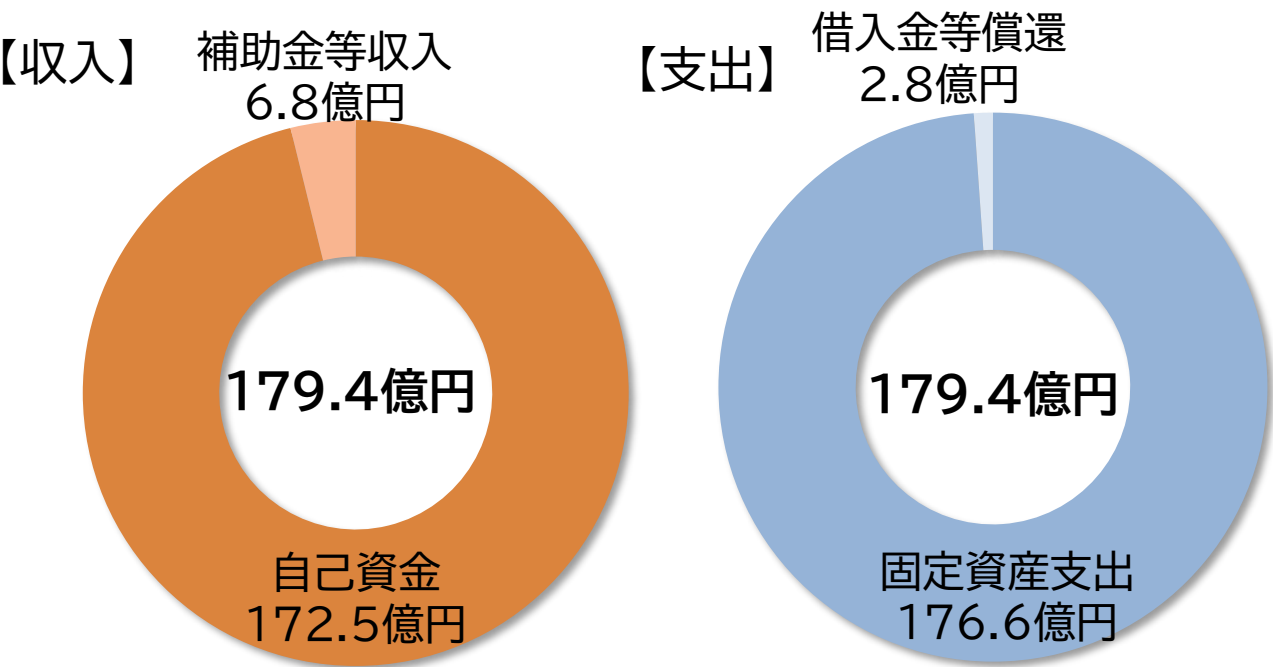
※金額は、それぞれ1億円未満を切捨てて表示しているため、合計及び収支差額が一致しない場合がある



【退職給付にかかる決算整理の影響額】

令和6年度・同7年度ともに退職給付にかかる決算整理による影響があった。当該影響額を除外すると、令和6年度の収支差引額は26億円、令和7年度の収支差引額は△34億円となる。

(3) 資本的収支



新宿南口出張所(R8.1.30 松本公園通出張所(R7.11.21開所)



香椎浜出張所(R7.10.29開所)



資本的支出の内訳

内容	金額
土地の購入	0.0億円
血液センターの施設整備等	26.9億円
機械備品の購入(成分採血装置、血液保管庫等)	29.6億円
車両の整備(移動採血車、献血運搬車、広報車等)	10.6億円
ソフトウェア等(無形固定資産)	109.3億円
借入金等の償還	2.8億円
合計	179.4億円

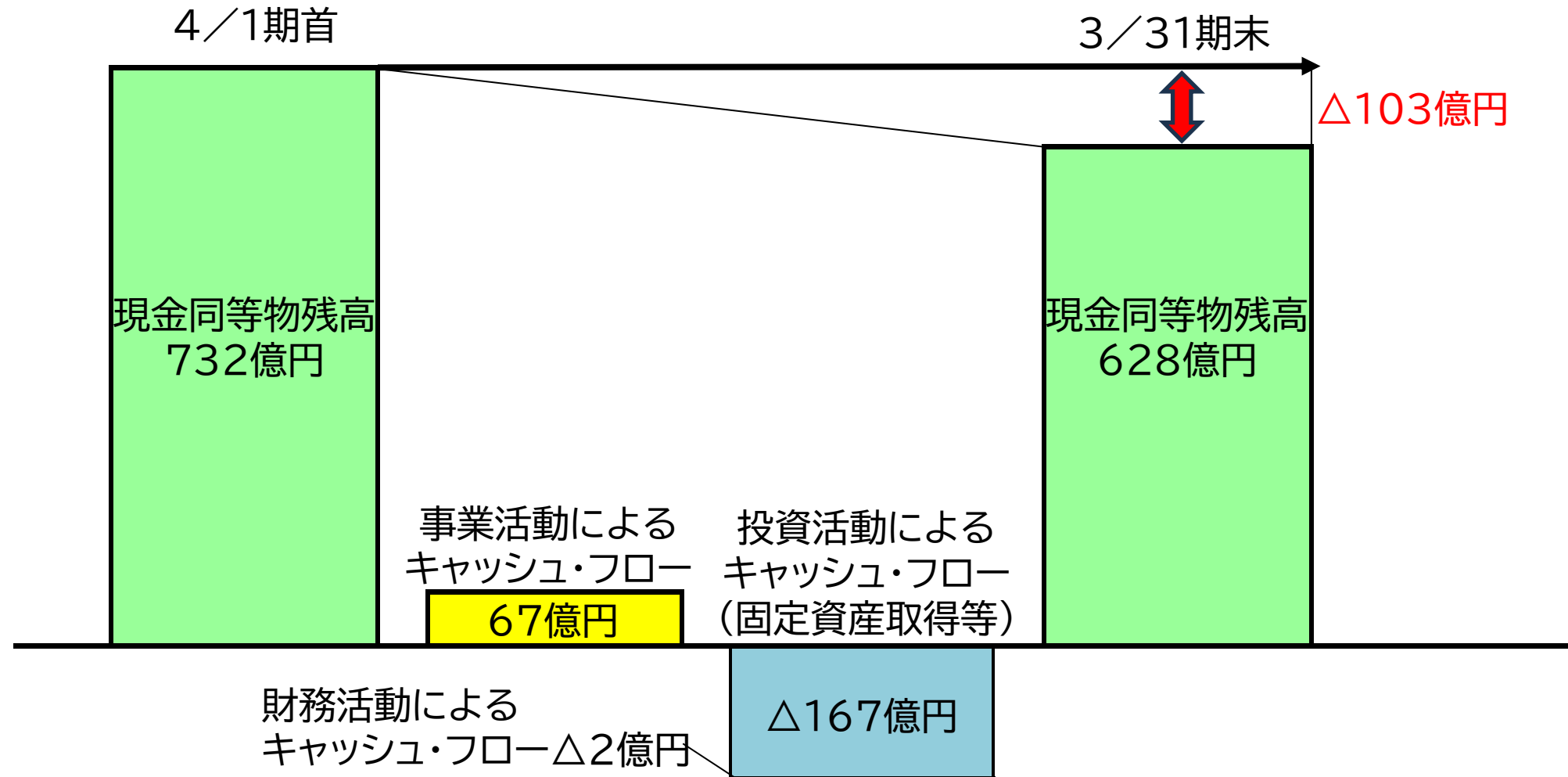
血液センターの施設整備等内訳

内容	金額
東京BC新宿南口出張所	1.4億円
長野BC松本公園通出張所	1.1億円
福岡BC香椎浜出張所	0.9億円
その他建物設備等更新	23.4億円
合計	26.9億円

※金額は、それぞれ0.1億円未満を切捨てて表示しているため、合計が一致しない場合がある

(4) キャッシュ・フロー

※金額は、それぞれ1億円未満を切捨てて表示しているため、合計が一致しない場合がある



(5) 令和6年度事業収支との比較(事業収益／事業費用)

事業収益の増加

41.4億円

ア 赤血球製剤の収益減少	(4.5万単位減少)	△3.8億円
イ 血漿製剤の収益増加	(0.7万単位増加)	0.6億円
ウ 血小板製剤の収益増加	(18万単位増加)	45.4億円
エ 原料血漿及びその他事業収益の減少		△0.7億円

事業費用の増加 ※退職給付にかかる決算整理による影響額を除外

108.9億円

- ア 人件費 26.0億円
 - 俸給表の改定、賞与支給月数の増加、時間外手当の増加【22.5億円】
- イ 材料費 29.1億円
 - 細菌スクリーニング用資材の追加等に伴う薬品費及び準備消耗品費の増加【18.9億円】
- ウ 経費 53.7億円
 - 基幹システムの更新に伴う準備消耗品費の増加【31.4億円】